

鎌倉芸術館  
KAMAKURA PERFORMING ARTS CENTER

# 日本語で歌う「第九」 歓喜の歌

Ludwig van Beethoven  
9th Symphony

平成18年 **12月17日(日)**  
鎌倉芸術館 大ホール  
午後3時開演(2時30分開場)

●主催 鎌倉市芸術館指定管理者サントリーパブリシティサービスグループ

## Program

G.ロッシーニ:歌劇「セヴィリヤの理髪師」序曲

L.v.ベートーヴェン:交響曲第9番 ニ短調 作品125「合唱付き」

(本日の公演は休憩がございません。予めご了承下さい。)

## Profile



古谷 誠一  
(指揮)

東京大学文学部卒業。在学中から桐朋学園オーケストラ研究生(指揮専攻)として、指揮を秋山和慶、堤俊作、尾高忠明の各氏に、作曲・ピアノを故・矢代秋雄、三善晃、末吉保雄の各氏に師事。二期会中四国支部のモーツァルト「魔笛」公演を指揮して指揮活動を始める。以降、長門美保歌劇団の「チャルダッシュの女王」、日本バレエ協会での「バヤデルカ」「シエラザード」、日生劇場での東宝ミュージカル「マイフェアレディ」など活動の場を広げる。また、7年間にわたり日本オペレッタ協会の定期公演を手掛け、日本で演奏される機会の少ないオペレッタを数多く指揮して高い評価を得る。東京シテイル、新日フィル、九州交響楽団、関西フィル、N響団友オケ、名古屋フィルなどを指揮。1997年10月にはカーネギーホールにて、オペラ「日本の夜明け」(演奏会形式)をセントルークスオーケストラ、ニューヨークと協演し、絶賛される。2003年10月には韓国初のオペラハウスにおいて、オープニングフェスティバル「マダム、バクフライ」を指揮して大成功を収める。2005年～2006年、ボローニャ歌劇場にて研修。昭和音楽大学、愛知県立芸術大学講師を経て、現在、名古屋芸術大学教授、セントラル愛知交響楽団正指揮者。



亀田 真由美  
(ソプラノ)

東京芸術大学別科修了後、洗足学園音楽大学卒業。オペラ「魔笛」の夜の女王でデビュー、以来二期会、日生劇場公演をはじめ多くの公演に出演している。他のオペラでは、「後宮よりの逃走」のコンスタンツェ、「ボートの王トリダテ」のアスパルジャ、「劇場支配人」のヘルツ夫人、「シンデレラ」(マズネ)の妖精の女王、「オルフェオとエウリディーチェ」のエウリディーチェ、「ヘンゼルとグレーテル」のグレーテル、「金閣寺」(日本初演)の母親等歌っている。1988年より、ローマ・モスクワ・ブエノスアイレス・ケルン・ベオグラード・ロンドン・ウルクアイ・サンパウロ・ウィーン等でリサイタルやコンサートに出演し、日本歌曲の紹介にも取り組んだ。特にサンパウロでの2回のリサイタルは大好評であった。また、「第九」や「メサイア」「レクイエム」等宗教曲のソリストの他、ヴィヴァロボス「ブラジル風パッサ」等オーケストラとも共演している。新作を手がけたリサイタルを含め、リサイタルも回を重ねている。日本歌曲の分野は意欲的に取り組み、演奏活動を続けている。洗足学園音楽大学講師、二期会会員、鎌倉音楽クラブ会員。



稲本 まき子  
(アルト)

東京芸術大学卒業、同大学院修了。戸田敏子、田中伸枝、児高百代の各氏に師事。NHK洋楽オーディションに合格し、プラームスの歌曲で出演する。コンサートでは、バッハ「ヨハネ受難曲」「マニフィカート」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「戴冠ミサ」、ベルゴレージ「スタハ・マテラ」、ヴィヴァルディ「グローリア」等の宗教曲や、「第九」のアルトとして活躍している。オペラは「リコレット」のジョヴァンナでデビュー。「フィガロの結婚」のマルチェリーナ、「魔笛」の侍女、「コシファンツォッチ」のドブラバ、「アルバート・ヘリング」の母親などを演じている。昭和音楽短期大学、北鎌倉女子学園、アプリカルチャーセンター講師、横浜シティオペラ、鎌倉音楽クラブ会員。



小林 彰英  
(テノール)

東京芸術大学声楽科卒業。同大学院修了。文化庁オペラ研修所第6期生修了。春明寺、三井輝夫、故・定生次郎、故・山路芳久、カルロ・メリチャーニ諸氏に師事。第16回イタリア声楽コンクールソペラ部門特賞受賞。文化庁芸術家在外研修員としてイタリアに留学。在伊中、第8回エルコラーノ国際声楽コンクールで第2位入賞。オペラでは、二期会「メリー・ウード」のカミュー、「チェネントラ」のドン・ラミロ、「こもり」のアルフレード、東急Bunkamura「魔笛」のタミーノほか、「ナクス島のアリアドネ」のアリゲッタ、「ペートルとベネディクト」のベネディクト、「オリバー・バーン」のオリバー、「セヴィリヤの理髪師」のアルマヴィヴァ等歌っている。またコンサートでは、N響定期でラヴェル「子供と呪文」都響定期でハイドン「四季」、東響400回記念演奏会でシェーンベルク「モーゼとアロン」、日フィルでワグネル「セレーナ」に出演。その他、「メサイア」、「第九」等の演奏会で多くの主要オーケストラにソリストとして出演。昨年3月韓国・高陽市星沙劇場、8月イタリア・スボレート市カイオ・メリツォ劇場にて「曾根崎心中」徳兵衛で出演。現在、東京音楽大学、東京芸術大学で非常勤講師を務める。東京室内歌劇場会員、二期会会員。



太田 直樹  
(バリトン)

東京芸術大学声楽科卒業。同大学院修了。86年～89年シェットウツガルト音楽大学に留学、リト科、オペラ科を修了。帰国後オペラ研修所第8期を修了。声楽を伊藤貞行、ギンター・ライヒの各氏に師事するほか、90年～04年草津及びDフイツにおいてエルスト・ヘフリガー氏のマスタークラスに参加。92年、研修所修了公演「チェネントラ」を皮切りに、二期会公演「フィダリオ」「学生王子」「ホフマン物語」「ニュルンベルクのマイスタージンガー」、東京室内歌劇場公演「アルジェのイタリア女」「ヴェニスに死す」「青空を待つ男」「リク・トンの夢」(東京・ソウル)、長野五輪記念オペラ「善光寺物語」、二期会・新国立劇場共催「罪と罰」、新国立劇場小劇場「オペラの積古」「シン・ジョウアンニ」、東京オペラ・プロデュース「恋するサー・ジョン」「魔笛」「当惑した家庭教師」「カプリッチョ」などのオペラに出演。ドイツ歌曲を中心としリサイタルや演奏会も多く、最近では「冬の旅」「美しき水車小屋の娘」全曲演奏会、ヴェルヴ「イタリア歌曲集」、浜離宮朝日ホール・ヴェルヴ歌曲全曲演奏会シリーズ、草津国際夏期音楽祭などに出演。バッハ「ヨハネ受難曲」をはじめとするオラトリオ、「第九」やモーツァルトの教会音楽、プラームス「ドイツレクイエム」、フォーレ「レクイエム」などの独唱を多く務めている。桐朋学園芸術短期大学講師、東京芸術大学音楽学専攻講師、二期会会員、東京室内歌劇場会員、東京オペラ・プロデュース・メンバー。2006年12月スクロヴァチェフスキ指揮ザールブリュッケ放送交響楽団「第九」に出演。

## 日本語で歌う「第九」合唱団

総勢236名が参加、9月18日から14回の練習を重ねる。姉妹都市・萩市の合唱団から11名の賛助出演を迎え、練習の成果を披露。

合唱指揮:富澤裕、辻端幹彦 合唱練習ピアノ伴奏:星野由実、江原郁子



写真:武藤 章

## 鎌倉交響楽団

鎌倉市民によるアマチュア管弦楽団として昭和38年に発足。現在団員120名を超える。春と秋の定期演奏会、3月のファミリーコンサート、12月に鎌倉市民第九コンサート(芸術館主催)、鎌倉市の幼稚園協会による園児のための演奏会他、年2回の室内演奏会などを継続して行っている。平成11年には、鎌倉・萩姉妹都市提携20周年を記念して両市で第九演奏会を、平成14年には同創立40周年記念演奏会を春・秋2回開催。昨年7月には、鎌倉合唱連盟40周年記念イベントに賛助出演を行った。団員の年齢層が学生から高齢者まで幅広く、職業も東京・横浜への通勤者、主婦、医師、教員と多彩であることが特徴であるが、近年はクラシックの古典に加え近現代の基本的な作品にも計画的に挑戦するとともに、地元に着目した活動により力を入れるなど、音楽文化のリード役としての活動を志している。

